「防犯アプリ」に関するアンケート　リサーチプラン

1. 調査の背景と目的

　大阪府警察本部では、府民の自主防犯意識向上のため、大阪府警察安まちメール等により情報提供を行っているが、メール登録者数の約７割が30～40代であり、10～20代の登録者数は１割に満たない状況である。一方、10～20代を狙った強制わいせつ等の犯罪が依然として高水準で発生していることから、同年代が身近に感じるスマートフォンのアプリを活用した効果的な取組みを検討することを目的に本調査を実施する。

1. 調査（検証）項目

仮説１　10～20代の若者も、他の年代と変わらず、犯罪に対する不安は感じている。

仮説２　若年層・中間層は、高齢層に比べ、スマートフォンで情報を入手する人の割合が高い。

仮説３　スマートフォンの中でもメールマガジンでの情報入手はあまりない。

1. 調査対象　大阪府に居住する18～29歳600サンプル、30代、40代、50代、60歳

以上各100サンプルの計1,000サンプル（各年代男女比１：１）

1. 質問項目

予備質問　５問

SC1　年齢（NA）

　　SC2　性別（SA）

　　SC3　都道府県（SA）

SC4　市町村（SA）

SC5　職業（SA）

本質問　８問

　　Q１　同居の家族構成（MA）

　　Q２　自分自身が犯罪被害に遭うかもしれないと不安を感じることはあるか（SA）

Q３　【犯罪被害に対して不安を感じる人】自分自身が被害に遭うかもしれないと思う犯罪と、そのうち最も被害に遭うかもしれないと思う犯罪（表組MA・SA）

　　Q４　【同居家族がいる人】同居家族が犯罪被害に遭うかもしれないと不安を感じることはあるか（SA）

　　Q５　【同居家族の犯罪被害に対して不安を感じる人】同居家族が被害に遭うかもしれないと思う犯罪と、そのうち最も被害に遭うかもしれないと思う犯罪（表組MA・SA）

　　Q６　普段情報を入手する媒体（MA）

　　Q７　【情報入手媒体でスマートフォンを選んだ人】情報入手のためによく使うアプリ（MA）

Q8　犯罪情報収集や防犯のためにスマートフォンアプリで使ってみたいと思う機能（MA）

　　※選択肢「その他」で自由記述も可とする

1. 検証方法

仮説１　SC１×Q２、SC１×Q４

仮説２　SC１×Q６、SC１×Q７